

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

小中の部

令和三年四月度 入賞句一覧

投句数 千二百四句



特選

説田 祐子 選

桜咲き見た人みんなの笑顔咲く

加茂郡川辺町 佐脇 愛(中二)

新年度が始まり、いろいろな人がそれぞれの立場からいろいろな気持ちで、桜を眺めていられることでしよう。時には、今の仕事や勉強のことなども考えながら。しかし、そうした人達も、「ああ、きれいだね。」「やっぱり春は桜だね。」などと話しながら満開の桜を見上げています。そのような場面を「みんなの笑顔咲く」とまとめてあるところがいいですね。私達も思わずそんな場面に浸ることができそうです。

こうもんにさくらふぶきがまつている

大垣市 山上 らいと(小三)

「こうもん」とは、学校の門のことですね。登校した作者の学校の門には大きな桜の木があり、桜の花が満開で、花びらが「ふぶき」のようにちぎっていたのです。その様子を「桜ふぶきがまつている」としたこと、で、「舞っている」ともれますが、登校してくる作者達を「待つていた」ともれます。作者にとつても読者にとつても楽しい様子が浮かぶ俳句です。元気に登校できた作者の様子が伝わってきます。

春の川ピカピカピカリ魚飛ぶ

揖斐郡揖斐川町 市川 璃音(小四)

春になって、川に魚でもと思いい川の様子を見に行かれたのでしょうか。その時、「魚が飛んだ」のです。その時の様子を「ピカピカピカリ」と表せたのがいいですね。春が来て魚も作者も元気で喜んでる様子が爽やかに伝わってきます。

秀逸

ぼうけんだたんぽぽわた毛そらのたび

大垣市 くわ原 みゆ(小三)

春の夜琵琶湖に映る朧月

大垣市 藤嶋 優翔(中一)

うめのはなみんなえがおにしてくれる

大垣市 ふくもと あやめ(小三)

石鱈玉私の気持ちをうつしてる

大垣市 牛田 帆香(小六)

ありがとう学校に礼卒業式

大垣市 高橋 桃子(中一)

つくしのび風にゆられておどりだす

大垣市 はせがわ みお(小三)

うめのはななかみかざりにしお出かけだ

大垣市 ひろせ みらい(小三)

一夜じようさくらといっしよなかよしだ

大垣市 みやけ そうだい(小三)

さくらはねひらひらしてねおどってる

大垣市 すぎの あい(小二)

はるのそら青いがようしいっぱいだ

大垣市 吉田 たける(小三)

入選

クローバーかぜといっしよにゆれている

大垣市

奥田 和佳奈(小三)

しゃぼん玉すけて見えるな青い空

大垣市

河合 ゆうが(小三)

さくらちるかわにもちつてはなのかわ

大垣市

いのぐち りの(小三)

うぐいすがなくとみんながまねをする

大垣市

説田 莓莉(小五)

さくらでね川がピンクにそまつてる

大垣市

遠藤 心夢(小五)

たいようでぴかぴかひかるはるの川

大垣市

そばじま えいが(小二)

春の風ひゅうひゅうひゅうとさわいでる

揖斐郡揖斐川町

松原 未桜(小四)

さくらちりピンクの雨がふってくる

大垣市

安井 柚葉(小六)

さくらさき最高学年なれるのか

大垣市

松本 あまね(小六)

さくらちる川がピンクのじゅうたんだ

大垣市

青木 勇樹(小五)

ひなまつりきょうだけわたししゅやくだよ

大垣市

伊藤 未翔(小六)

蝶がまう二ひきそろつておにごおっこ

大垣市

奥田 瑛斗(小六)

花吹雪桜のじゅうたん川のなか

大垣市

林 心楽(小六)

おはなみでさくらとおどるわたしたち

大垣市

安田 桃々(小六)

新学期みんなもさくらもわらつてる

大垣市

可兒 羽純美(小五)

さくらまう空にピンクの色つけて

大垣市

荻谷 菜歩(小五)

うぐいすがわたしをはさみかいわする

大垣市

半田 杏奈(中一)

春暁のうつすら巡る鳥の声

大垣市

櫻井 実篤(中一)

窓開ける春のにおいがかおる朝

加茂郡川辺町

平岩 美留(中二)

はなびらが出会いを求め飛んでいく

加茂郡川辺町

天池 朱花(中二)

選者吟

花吹雪聖火リレーを祝うごと

祐子



小中の部